

一冊 橋聖一 松ヤ

十返 抄

先日 矢張り いたしました。いろいろ 僅は 一と。お会  
 いし 談した かつた のです。あゝとき、大っん 實大 な言  
 葉を かけ いたす。大っん うめしか ったす。小生と により。  
 あなたに 何らの 言ひと ころなし、りつや はへん 事を書  
 き 内心 留まぬと 思つて ありました。言ひれ 流じヤート  
 リスに 踊らされ、一文にも ならぬ 結果と たり、要するに、  
 リセブらに 是の方の 反感を 思つたわけと、こわの 是の 文を  
 自筆して ありました 訳です。思つた 行動 時分が

ら、僕を ヒイキに した。小生も うれし かつたし  
 た。かつた。りつも 氣に かけ いたすたので、二の 浦の ように 仰  
 言つて せうと 思ひ いたす。今 後、どうか  
 水に 流し ころし け 短し します。夏子 もつ は 愛読  
 して います。ことに 近き や 毒の 如く の ような 風俗 時評 的  
 的 向をもつて 作ら ば いろいろ と 尚 あり 面白く、一ぱん  
 何れ び 書い て みる つ り いたす。久し ぶり は 読し 二 冊  
 の ツカエ を おう した ような 嬉し さを 感じ ました ので、一 冊  
 したく め ました。また 一 冊 け 送つ て お話 し いたす。なつ かし  
 い は 持 び ます。ご めん 下 さい。

SY 特撰

品川区西大崎三ノ五三七

柏方

十返

抄